

製品情報データシート

作成日：2025 年 2 月 13 日

製造者

会社：大倉電気株式会社
所在地：〒350-0269
埼玉県坂戸市につさい花みず木 1-4-4
担当部門：品質保証部
連絡先：049-282-7755

製品名 P 5 1 0 炭酸水素ナトリウム + 炭酸ナトリウム

試薬を安全かつ適切に取り扱って頂くために、該当する部品のデータシート（次ページ）をご参照し、取扱い時の注意事項をお読みください。

あくまでも取り扱い上の注意に関する参考情報を提供するものであり、いかなる保証をなすものではありません。

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : 炭酸ナトリウム
製品コード : 13434
会社名, 住所及び電話番号 : 小宗化学薬品株式会社
埼玉県行田市富士見町一丁目19番
048-556-6261
FAX番号 : 048-553-2515
メールアドレス : info@koso-chem.co.jp
推奨用途 : 試験研究, 化学工業原料
使用上の制限 : 医療用品, 食品, 家庭用品ではありません。
制定年月日 : 1993年4月1日
改定年月日 : 2022年9月8日
整理番号 : 13434-7

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない。
自然発火性固体 : 区分に該当しない。
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない。
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない。
酸化性固体 : 分類できない。
金属腐食性化学品 : 分類できない。

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分に該当しない。
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない。
急性毒性(吸入: 蒸気) : 分類できない。
急性毒性(吸入: 粉じん) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
呼吸器感作性 : 分類できない。
皮膚感作性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発がん性 : 分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性, 麻酔作用)



特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない。

誤えん有害性 : 分類できない。

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。

オゾン層への有害性 : 分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 重篤な眼の損傷
吸入すると有害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

一般 : 医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルをもっていくこと。
使用前にラベルをよく読むこと。

安全対策 : 粉じんの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋, 保護衣, 保護眼鏡, 保護面を着用すること。

応急措置 : 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

廃棄 : 内容物, 容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

その他の危険有害性 : 情報なし。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要 : 情報なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名 : 炭酸ナトリウム



慣用名又は別名	： 炭酸二ナトリウム， ソーダ灰， 無水炭酸ソーダ， 炭酸ソーダ， 炭酸ジナトリウム		
濃度又は濃度範囲	： 99.5 %以上(炭酸ナトリウム)		
化学式(分子量)	： Na_2CO_3	FW	： 105.99
CAS RN ®	： 497-19-8		
化審法番号	： 1-164		
安衛法番号	： 公表		

4. 応急措置

吸入した場合	： 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	： 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水，シャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断，手当てを受けること。
飲み込んだ場合	： 無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状 の最も重要な徴候症状	： 吸入： 咳， 咽頭痛 皮膚： 発赤 眼： 発赤， 痛み 経口摂取： 灼熱感， 腹痛
応急処置をする者の保護 に必要な注意事項	： 救援者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。
医師に対する特別な 注意事項	： 情報なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	： 本品は不燃性であるため、周辺火災に適した消火剤を用いる。 水， 粉末， 二酸化炭素， 乾燥砂， 泡
使ってはならない消火剤	： 棒状水
火災時の特有の危険有害性	： 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
特有の消火方法	： 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、周辺に散水して冷却する。 この製品自体は、燃焼しない。



消火活動を行う者の特別な : 防火保護衣, 手袋, ゴム長靴及び空気呼吸器等を着用する。
保護具及び予防措置 防火保護具を着用し、風上から作業する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具 : 全ての着火源を取り除く。
及び緊急措置 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
漏出した区域にロープを張るなどして漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
密閉された場所に立ち入る前に換気する。
作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸収を避ける。
環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 危険でなければ漏れを止める。
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学薬品廃棄容器に入れる。
二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものは、速やかに取り除く。
漏出物に接触しない。
排水溝, 下水溝, 地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策 : 貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置し、局所排気、全体換気を行うこと。
安全取り扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
飲み込みを避けること。
皮膚との接触を避けること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
接触回避 : 酸, マグネシウム, 五酸化りん



衛生対策 : 適切な保護具, 保護衣, 保護手袋, 保護眼鏡, 保護帽を使うこと。
貯蔵ないし取り扱う作業場の整理整頓を図ること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。換気の良いところで保管すること。施錠して保管すること。
安全な容器包装材料 : ガラス, ポリエチレン, ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定
許容濃度 : 日本産衛学会(2013年) 第3種粉じん 2 mg/m^3 (吸入性粉塵)
 8 mg/m^3 (総粉塵)
ACGIH(2013年) 10 mg/m^3 (総粉塵)
設備対策 : この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、周知させること。装置の密閉化又は局所排気装置を設置し取り扱うこと。
保護具
呼吸用保護具 : 保護マスク, 送気マスクなどを着用すること。
手の保護具 : 化学薬品に耐性のある材質でできた保護手袋を着用すること。
眼, 顔面の保護具 : 保護メガネ, ゴーグル, 面体などを着用すること。
皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。
特別な注意事項 : 情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 粉末
色 : 白色
臭い : 無臭
融点/凝固点 : 851°C
沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし。
可燃性 : この製品自体は、燃焼しない。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : この製品自体は、燃焼しない。
引火点 : この製品自体は、燃焼しない。
自然発火点 : この製品自体は、燃焼しない。
分解温度 : 400°C 付近から炭酸ガスを徐々に放出する。
pH : 11.4(3 %溶液)
動粘性率 : データなし。



溶解度 : 水 : 30.7 g/100 g (25 °C)
グリセリンに可溶。
エタノールにほとんど溶けない。

n-オクタノール/水分配 : log Pow=-6.19

係数

蒸気圧 : 9.92×10^{-9} mmHg(25 °C)

密度及び/又は相対密度 : 2.53(真比重)

相対ガス密度 : データなし。

粒子特性 : データなし。

その他のデータ : データなし。

10. 安定性及び反応性

反応性 : 空気中で徐々に吸湿して一水塩となる。

化学的な安定性 : 通常条件で安定である。

危険有害反応性 : 水溶液は中程度の強さの塩基である。
酸と激しく反応する。
マグネシウム、五酸化りんと反応し、爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件 : 高温及び直射日光

混触危険物質 : 酸, マグネシウム, 五酸化りん

危険有害な分解生成物 : 二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

経口 : ラットのLD₅₀=2800 mg/kg、および4090 mg/kg(SIDS(access on July 2008))はいずれもJISの分類基準の区分外に該当する(国連GHSでは区分5に該当)。

経皮 : ウサギLD₅₀>2000 mg/kg(SIDS(access on July 2008))により区分外とした。

吸入(ガス) : 分類対象外のため区分に該当しない。

吸入(蒸気) : 情報が不十分なため分類できない。

吸入(粉じん) : ラットLC₅₀(4時間換算)1.2 mg/L(SIDS(access on July 2008))より区分4とした。

吸入(ミスト) : 分類対象外のため区分に該当しない。

皮膚腐食性/刺激性 : ウサギ皮膚に4あるいは24時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは0, 刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS(access on July 2008))が得られ、さらにヒトのパッチテストでも4時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは0, 刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS(access on July 2008))が得られていることに基づき、区分外とした。



眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギを用いた試験において、「刺激性なし(not irritating)」～「強い刺激性(highly irritating)」と相反する結果(SIDS(access on July 2008))が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均(MMTS)が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8, 虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。

呼吸器感作性/皮膚感作性 : 情報が不十分なため分類できない。

生殖細胞変異原性

: 情報が不十分なため分類できない。

発がん性

: 情報が不十分なため分類できない。

生殖毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった(SIDS(access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS(access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間に嗜眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS(access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 情報が不十分なため分類できない。

誤えん有害性

: 情報が不十分なため分類できない。

12. 環境影響情報

生体毒性

水生環境有害性(急性) : 甲殻類(ミジンコ)での48 h-EC₅₀=250 mg/L(SIDS 2002)であることから、区分外とした。

水生環境有害性(長期間) : 難水溶性ではなく(水溶解度=5307 mg/L、PHYSPROP Database 2008)、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

残留性・分解性 : 情報が不十分なため分類できない。

生体蓄積性 : 情報が不十分なため分類できない。

土壌中の移動性 : 情報が不十分なため分類できない。

オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。



13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた専門の廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を依頼する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当

品名(国連輸送名) : 非該当

国連分類 : 非該当

容器等級 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

海上規制情報 : 非該当

航空規制情報 : 非該当

陸上規制情報 : 非該当

特別な安全対策 : 運搬に際しては直射日光をさけ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

15. 適用法令

国内適用法令

労働安全衛生法 : 非該当

化管法(PRTR法) : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

船舶安全法 : 非該当

航空法 : 非該当

道路法 : 非該当

海洋汚染防止法 : 施行令別表第1有害液体物質(Z類物質)

既存化学物質リスト

アメリカ TSCA : 収載

EU EINECS/ELINCS : 207-838-8

EU REACH : 非該当

16. その他情報



参考資料 : 化学物質総合情報提供システム 独立行政法人製品評価技術基盤機構
GHS分類データ(ID=20A2055) 独立行政法人製品評価技術基盤機構
化学大辞典 共立出版 (1963)
JISハンドブック48試薬 日本規格協会
17019の化学商品 化学工業日報社 (2019)
原料メーカーから提供されたSDS情報
等

免責事項 : 本SDSは弊社が信頼できるとものと判断した情報をもとにJIS Z7252:2019およびJIS Z7253:2019に準拠し作成したものです。正確性を保証したり何ら責任を負うものではありません。
危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。
注意事項は通常の手続きを対象としたもので、特殊な取り扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱いをお願いします。
本SDSの情報は最新を確保するために適宜更新致しますのでご了承下さい。



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : 炭酸水素ナトリウム
製品コード : 13452
会社名, 住所及び電話番号 : 小宗化学薬品株式会社
埼玉県行田市富士見町一丁目19番
048-556-6261
FAX番号 : 048-553-2515
メールアドレス : info@koso-chem.co.jp
推奨用途 : 試験研究, 化学工業原料
使用上の制限 : 医療用品, 食品, 家庭用品ではありません。
制定年月日 : 1993年4月1日
改定年月日 : 2023年4月24日
整理番号 : 13452-7

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない。
自然発火性固体 : 区分に該当しない。
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない。
酸化性固体 : 分類できない。
金属腐食性化学品 : 分類できない。

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分に該当しない。
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない。
急性毒性(吸入: 粉じん) : 区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない。
呼吸器感作性 : 分類できない。
皮膚感作性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発がん性 : 分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない。
誤えん有害性 : 分類できない。



環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)	: 区分に該当しない。
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない。
オゾン層への有害性	: 分類できない。

GHSラベル要素

絵表示	: 非該当
注意喚起語	: 非該当
危険有害性情報	: 非該当
注意書き	
一般	: 医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルをもっていくこと。 使用前にラベルをよく読むこと。
安全対策	: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 保護手袋, 保護衣, 保護眼鏡, 保護面を着用すること。 粉じんの吸入を避けること。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 環境への放出を避けること。
応急措置	: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察, 手当てを受けること。 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。気分が悪いときは医師の診察, 手当てを受けること。
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。
廃棄	: 内容物, 容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
その他の危険有害性	: 情報なし。
重要な徴候及び想定される非常事態の概要	: 情報なし。



3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	： 化学物質	
化学名又は一般名	： 炭酸水素ナトリウム	
慣用名又は別名	： 重炭酸ナトリウム, 重曹, メイロン, プレビネート	
濃度又は濃度範囲	： 99.3 %以上	
化学式(分子量)	： NaHCO_3	FW : 84.01
CAS RN [®]	： 144-55-8	
化審法番号	： 1-164	
安衛法番号	： 公表	

4. 応急措置

吸入した場合	： 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	： 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	： 無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	： 情報なし。
応急処置をする者の保護に必要な注意事項	： 救援者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。
医師に対する特別な注意事項	： 情報なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	： 本品は不燃性であるため、周辺火災に適した消火剤を用いる。 水, 粉末, 二酸化炭素, 乾燥砂, 泡
使ってはならない消火剤	： 棒状水
火災時の特有の危険有害性	： 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。



- 特有の消火方法 : 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、周辺に散水して冷却する。
この製品自体は、燃焼しない。
- 消火活動を行う者の特別な : 防火保護衣、手袋、ゴム長靴及び空気呼吸器等を着用する。
保護具及び予防措置 防火保護具を着用し、風上から作業する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項, 保護具 : 全ての着火源を取り除く。
及び緊急措置 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
漏出した区域にロープを張るなどして漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
密閉された場所に立ち入る前に換気する。
作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸収を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 危険でなければ漏れを止める。
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学薬品廃棄容器に入れる。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものは、速やかに取り除く。
漏出物に接触しない。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置し、局所排気、全体換気を行うこと。
- 安全取り扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
飲み込みを避けること。
皮膚との接触を避けること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

- 接触回避 : 酸



衛生対策 : 適切な保護具, 保護衣, 保護手袋, 保護眼鏡, 保護帽を使うこと。
貯蔵ないし取り扱う作業場の整理整頓を図ること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。換気の良いところで保管すること。施錠して保管すること。
安全な容器包装材料 : ガラス, ポリエチレン, ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 未設定
許容濃度 : 日本産衛学会
第3種粉塵, 2 mg/m^3 (吸収性粉塵), 8 mg/m^3 (総粉塵)
ACGIH(2013年) 未設定
設備対策 : この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、周知させること。装置の密閉化又は局所排気装置を設置し取り扱うこと。

保護具

呼吸用保護具 : 保護マスク, 送気マスクなどを着用すること。
手の保護具 : 化学薬品に耐性のある材質でできた保護手袋を着用すること。
眼, 顔面の保護具 : 保護メガネ, ゴーグル, 面体などを着用すること。
皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。
特別な注意事項 : 情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体
色 : 白色
臭い : 無臭
融点/凝固点 : データなし。
沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし。
可燃性 : この製品自体は、燃焼しない。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : この製品自体は、燃焼しない。
引火点 : この製品自体は、燃焼しない。
自然発火点 : この製品自体は、燃焼しない。
分解温度 : 50°C
pH : 8.0(5 %水溶液)
動粘性率 : データなし。



溶解度	: 6.5 g/100 g(0 °C)(水) 13.8 g/100 g(60 °C)(水)
<i>n</i> -オクタノール/水分配	: データなし。
係数	
蒸気圧	: データなし。
密度及び/又は相対密度	: 0.89～1.4(見掛け嵩比重)
相対ガス密度	: データなし。
粒子特性	: データなし。
その他のデータ	: データなし。

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸と接触すると分解して二酸化炭素を生成する。吸湿性がある。
化学的な安定性	: 通常条件で安定である。
危険有害反応性	: 水溶液は弱アルカリ性である。 酸と激しく反応する。
避けるべき条件	: 高温及び直射日光
混触危険物質	: 酸
危険有害な分解生成物	: 炭酸ガス

11. 有害性情報

急性毒性

経口	: ラットのLD ₅₀ 値として、>4000 mg/kg, 7334 mg/kg, 4220-8290 mg/kg の報告(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。
経皮	: ラットのLD ₅₀ 値として、>2000 mg/kgの報告(農薬工業会(1996))に基づき、区分外とした。
吸入(ガス)	: 分類対象外のため区分に該当しない。
吸入(蒸気)	: 分類対象外のため区分に該当しない。
吸入(粉じん)	: ラットのLC ₅₀ 値として、>4.74 mg/L (4.5時間)(4時間換算値: 5.33 mg/L)の報告(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。
吸入(ミスト)	: 分類対象外のため区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギを用いたテストガイドラインに準拠した試験において極めて軽度の刺激(皮膚一次刺激性スコア=0.3)との結果(SIDS(2004))に基づき区分外(国連分類基準の区分3)とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: SIDS(2004)に5例のデータが報告されており、信頼性の高いEPA TSCA ガイドラインに準拠した試験で24時間後のスコア値(MMTS)が8.3(わずかな刺激性)との報告があることから区分外(国連分類基準の区分3)とした。
呼吸器感作性/皮膚感作性	: 情報が不十分のため分類できない。



- 生殖細胞変異原性 : 情報が不十分なため分類できない。
- 発がん性 : 情報が不十分なため分類できない。
- 生殖毒性 : 情報が不十分なため分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 経口経路の報告は全てガイダンスの範囲外(3000-9000 mg/kg)の用量を投与した試験であり、自発運動の抑制、歩行失調、浅呼吸など一時的な症状がみられたが後に回復している(SIDS(2004), 農薬工業会 (1996))ことから、区分3(麻酔作用)とした。なお、ラットの吸入ばく露(ミスト)においては、ガイダンスの上限近傍の濃度(4.74 mg/L)で、一時的な運動抑制、円背位、流涙、鼻汁がみられたが回復性であった。経皮経路においては、ラットにガイダンスの範囲の最高用量 (2000 mg/kg) の原体をばく露した試験において死亡及び毒性症状はみられなかったとの記載がある(農薬工業会 (1996))。以上の結果から区分外とした。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 情報が不十分なため分類できない。
- 誤えん有害性 : 情報が不十分なため分類できない。

12. 環境影響情報

生体毒性

- 水生環境有害性 (急性) : 甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の48時間 $EC_{50}=1020$ mg/L(SIDS, 2004), 魚類(ニジマス)の96時間 $LC_{50}=7700$ mg/L(SIDS, 2004)から区分外とした。
- 水生環境有害性 (長期間) : 慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC(繁殖, 生存) >576 mg/L(SIDS, 2004)であることから、区分外となる。
慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき水中での挙動が不明であるが、魚類(ニジマス)の96時間 $LC_{50}=7700$ mg/L(SIDS, 2004)であることから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
- 残留性・分解性 : 情報が不十分なため分類できない。
- 生体蓄積性 : 情報が不十分なため分類できない。
- 土壌中の移動性 : 情報が不十分なため分類できない。
- オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意



残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた専門の廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を依頼する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当

品名(国連輸送名) : 非該当

国連分類 : 非該当

容器等級 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

海上規制情報 : 非該当

航空規制情報 : 非該当

陸上規制情報 : 非該当

特別な安全対策 : 運搬に際しては直射日光をさけ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

15. 適用法令

国内適用法令

労働安全衛生法 : 非該当

化管法(PRTR法) : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

船舶安全法 : 非該当

航空法 : 非該当

海洋汚染防止法 : 非該当

既存化学物質リスト

アメリカ TSCA : 収載

EU EINECS/ELINCS : 205-633-8

EU REACH : 非該当

16. その他情報



参考資料 : 化学物質総合情報提供システム 独立行政法人製品評価技術基盤機構
GHS分類データ(ID=25A0045) 独立行政法人製品評価技術基盤機構
化学大辞典 共立出版 (1963)
JISハンドブック48試薬 日本規格協会
17019の化学商品 化学工業日報社 (2019)
原料メーカーから提供されたSDS情報
等

免責事項 : 本SDSは弊社が信頼できるとものと判断した情報をもとにJIS Z7252:2019およびJIS Z7253:2019に準拠し作成したものです。正確性を保証したり何ら責任を負うものではありません。
危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意して下さい。
注意事項は通常の利用を対象としたもので、特殊な利用の場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱いをお願いします。
本SDSの情報は最新を確保するために適宜更新致しますのでご了承下さい。

